

企業名

泉橋酒造株式会社

代表者名

橋場 友一

設立年月日

江戸・安政4年創業(1857年)

資本金

2,000万円

従業員数

25名

所在地

〒243-0435
海老名市下泉5-5-1
TEL. 046-231-1338
FAX. 046-233-1452
<http://izumibashi.com/>
info@izumibashi.com

事業テーマ

発泡性を付加した日本酒
を夏でも安定した品質で
常温流通可能にするため
の設備導入計画



ものづくり補 社内の事業計

ものづくり補助 金を知った きっかけ

平成17年、米作りから酒造りまで一貫して自社生産を行うために、精米工程の内製化をテーマに経営革新計画に取り組んできました。その経営革新計画がきっかけで、神奈川県中央会とのお付き合いが始まりました。平成21年には地域資源活用補助金にも採択され、3年かけて事業を行ってきました。このような補助金を利用してきた経験を他社に紹介しようと思い、自社で補助金制度の勉強会を開催していたところ、居合わせた方から平成24年度のものづくり補助金の存在を教えてくださいました。ちょうどその時期、瓶詰工程の設備投資を行う計画があったこと。そして夏場の生酒の販売増加という2つの経営課題があったこと

から、ぜひチャレンジしたいと思いました。もともと製造設備の取換投資を行う予定で金融機関と調整を進めていました。しかし、せっかく補助金を頂けるならば、さらに計画を発展させて発泡日本酒の製造に必要な設備を追加投資することで、革新性のある取り組みを目指したんです。

ものづくり補 助金の事業 計画の成果

常温流通が可能な発泡日本酒の開発ということで、ベテラン杜氏を中心に外部のアドバイザーを巻き込みながら試行錯誤を行ってきました。試作品のテスト、試飲を繰り返し、ようやく「とんぼスパークリング」という微発泡にのり純米酒を完成させることができました。補助事業終了後、販売開始



▲酒米作りから精米・醸造まで一貫した製造工程

助金は、 画の練習に最適

150年もの歴史がある酒造メーカーの泉橋酒造。
ものづくり補助金を活用し、常温流通が可能な
発泡日本酒という新商品開発に取り組んだ事例である。



▲補助事業の成果品「とんぼスパークリング」

してから既に2回目の夏を迎えましたが、常温でも流通可能な発泡日本酒は各方面の評判もよく順調に売り上げています。最近では低温流通のコストが高騰していますが、常温での流通が可能のため影響を受けていません。海外向けの需要も増えており、ソウル・マレーシア・香港・台湾・シンガポールなど東南アジア各国に輸出実績があるほか、上海からも引き合いがある状況です。ものづくり補助金の事業計画は成功したと思っています。

最近では新たな計画を進めています。日本酒の瓶詰め工程では「火入れ」という加熱処理が必要ですが、発泡日本酒の火入れのためには耐圧・耐熱性がより高い瓶が必要となってきます。例えば一般に普及しているシャンパンの瓶の栓では加熱に耐えられません。瓶製造メーカーと協力して発泡日本酒の加熱に耐えられる瓶の開発を待ち、ようやく現在の250mlに加え、新た

に720mlのビンが完成しました。近く販売開始できる段階までできています。

ものづくり補助 金でプラスに なったこと

補助金の申請書を自分で作り上げることはとても勉強になりました。申請書

企業概要

「酒造りは米作りから」の信念のもと、全国でも珍しい「栽培醸造蔵」として海老名市をはじめ近隣地区で酒米栽培から精米・醸造まで一貫して行う老舗の酒蔵。酒米の栽培地域は、海老名市、座間市、そして、相模原市に広がり、約40ヘクタール余りの栽培面積になる。主な栽培品種は「山田錦」で、原料米の95%余りを地元産でまかなう。当社は地元の酒米生産者、JA、神奈川県の農業技術センター等と協力して「さがみ酒米研究会」という原料米の研究・栽培会を組織している。会員農家は全員神奈川県認定のエコファーマーでもあり、環境に配慮した農業を率先。泉橋酒造は、上記40ヘクタールのうち、約6ヘクタールを自社で栽培している。

には決算書も含まれますが、それが審査員など多くの人の目で見られるため、「自分の会社が外部からどう見られるのか？」ということを考える訓練になりました。伝票の整理は本当に大変でしたが。こうした経験によって、外部や自社の従業員に決算書や計画書を見せられる会社になることができたと思っています。初めて経営革新計画に取り組んだときは、なぜこのような細かい計画を作らなければいけないのか？と思ったこともありましたが、今では計画書作りは会社を良くするための参考書や練習ドリルのようなものと考えようになりました。その結果がどうかわかりませんが、金融機関からの評価も変わってきた気がします。今では融資の相談を金融機関の方から持ちかけられることもあります。

補助金というのは、自社の事業計画があってこそそのものだと思います。その時に活用できるものを上手く活用することが大事です。補助金の時期を待って投資を遅らせ事業のタイミングを見失ってはいけないと考えています。ただ、タイミングが合えば今後ぜひチャレンジしていきたいと思っています